

刊行のことは

猿渡啓子教授は、2017年3月31日をもって本学を定年により退職されました。本誌『研究年報 経済学』の第76巻第1号を、猿渡教授のご退職を記念する特別号とします。

猿渡教授は、1975年3月に津田塾大学学芸学部国際関係学科を卒業後、津田塾大学大学院国際関係学研究所に進学し、1978年3月に同研究所の修士課程を修了しました。次いで、一橋大学大学院社会学研究科博士課程に進学し、1984年3月に同研究所博士課程を単位取得退学しました。1984年7月からは日本学術振興会特別研究員に採用され、翌1985年4月には城西大学経済学部専任講師に、1989年4月には同学部助教授に任ぜられました。その後、1991年4月に東北大学経済学部助教授として着任され、1994年4月に東北大学経済学部教授に昇任されました。1999年4月には、改組に伴い東北大学大学院経済学研究科教授となり、以後、2017年3月31日をもって定年退職するまで、本学において研究と教育に携わられました。2013年1月には、一橋大学より博士（社会学）の学位を授与されております。

猿渡教授の研究は、イギリスの海外投資の形態と概念に関する歴史的研究、イギリスの海外貿易商社に関する歴史的研究、マレーシアにおける外国企業に関する現状分析的研究という密接に関連を持った3分野に関する業績を含んでいます。このうち、イギリスの海外投資の形態と概念に関する歴史的研究では、1980年代末に新たに提示された第一次世界大戦以前のイギリスの海外投資形態である「フリースタンディングカンパニー」の概念を、歴史の実証研究と照らし合わせつつ検討し、この概念を精緻化しました。フリースタンディングカンパニー形態での投資はイギリス的な海外直接投資形態で、従来典型とされてきた多国籍企業形態の海外直接投資と比較されます。猿渡教授は、フリースタンディングカンパニーをめぐる諸概念間の関係を再構成し、「W型クラスター」、「C型クラスター」、「事前プロジェクト選定」、「事後プロジェクト選定」などの独自の概念を提示しました。イギリスの海外貿易商社に関する歴史的研究では、イギリス貿易商社を「専門商社」とする従来の学説に挑戦し、19世紀から20世紀半ばに至るまでのマレーシアを中心とした東南アジア地域でのイギリス貿易商社の経営史を研究することで総合商社化の過程を明らかにしました。マレーシアにおける外国企業に関する現状分析的研究では、独立後のマレーシアにおけるイギリス貿易商社の経営環境の変化への対応の分岐を示す一方、マレーシアの工業化過程における外国企業の役割を明らかにしました。

猿渡教授は、学内では、2012年4月から2014年3月まで、経済学研究科副研究科長・経済学部副学部長を務めるなど、本学・本研究科に多大な貢献を果たしました。また、学会活動としては、社会経済史学会評議員、日本比較経営学会理事などを歴任し、これらの学会の運営や発展に大きく寄与されました。

最後になりましたが、猿渡教授が今後ともますますご健康でご活躍されますことを祈念するとともに、私たち後進にたいし、引き続き温かいご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年1月31日

東北大学大学院経済学研究科長 照井伸彦